

佐伯藩校 四教堂 教授 松下 筑陰 その1 前段

講師 佐藤 巧 氏

・プロフィール:

昭和25年、生まれ。64歳。

50歳を機に、「番匠茶屋」を自作、レストラン経営開始。町並み保存の仕事に関わり、切り絵作家に。

佐伯史談会35年、事務局長10年。四教堂塾塾長、日豊中世歴史研究会 佐伯支部長を務める。

著書：『絵巻梅牟礼実録』、『日豊風雲録』（共著）、『中島子玉の日本史(日本詠史新樂府現代語訳)』、『中島子玉と恩師淡窓の漢詩』（共著）、他。

一級建築士。切り絵作家。

季節料理「番匠茶屋」：主は、息子さん。

(TEL:23-3100 池船、花火観覧席と佐伯大橋の中間、土手沿い、登り口そば)

・はからずも受賞の荣誉

日田でこの2月23日「咸宜園の日」というのがありました。たまたまですが、私が自分の研究成果として日田の方に送っておりましたのが「中島子玉・松下筑陰」。これが咸宜園教育顕彰事業の中で、運良く教育文化部門優秀賞3名に採択されました。表彰式及びその発表会がその「咸宜園の日」にあり招待されて出席してきました。関連する話を、その席でするようにと依頼されましたが、今日はその時の資料をもとに、先般の「中島子玉」に続く形になりますが、お話をさせていただきたいと思います。

咸宜園は、今、周りの豆田町等を含めて世界遺産登録を目指しているそうです。世界遺産を目指すことで市民が団結力で一つになってそれに向かっていく目標ができて、そのことにも意義があると感じているようです。

・広瀬淡窓と日本一佐伯文庫

佐伯は2万石の城下町ですと日田の人たちへ紹介しました。八代藩主、毛利高標(たかすえ)公の時、藩校四教堂と佐伯文庫が開設されました。初代の四教堂教授は、広瀬淡窓の恩師、松下筑陰先生でした。

淡窓は14歳の時に、佐伯に来て、4ヶ月ほど、四教堂に学んでいます。その淡窓が、佐伯文庫は海大無双、海の内では並ぶものがない、日本に並ぶものがないと言っているんですね。それで、ここに掲げてあるポスター、日本一佐伯文庫と書いてあるんですが、そういうこともあってのことなんです。

その後、淡窓先生の咸宜園に学んで藩校四教堂の教授になった人に、中島子玉(しぎょく)、秋月橋門(きつもん)、その子の秋月新太郎、こういう人がおりました。

小栗憲一(布岳)は、戸次出身、咸宜園に学び、後に善教寺の住職となり、多くの詩、書、画を残した人です。こうした藩政時代の教育があって、明治以降に活躍した人材がたくさん排出したのです。中でも、矢野龍溪、藤田茂吉が有名です。

・「文教都市佐伯」構想

佐伯史談会は、昭和40年の発足ですが、幹事の羽柴弘(ひろむ)先生を中心に、郷土の文人の人物誌・作品を紹介しながら、「文教都市佐伯」の構想を提言しました。そのことは、佐伯史談にちゃんと書き残されています。

「文教都市佐伯」にするための三種の神器というのは何だったかということ、歴史資料館・図書館・文化会館でした。一番最初にできたのは、文化会館。佐伯生コンの社長であった佐々木博生さんは、この時、文化会館を建てるために一千万円の寄付をしたんです。

ところがその文化会館を建てるために、三の丸御殿を壊すという。今ある櫓門ももう老朽化しているから邪魔だ、これも壊そうという。

史談会は、市長や市議会に陳情、市民にビラを配布したりして変更を求めましたが、採択されませんでした。

三の丸御殿は、船頭町住民の努力によって、住吉神社近くに移転、現在住吉御殿として、公民館にも利用されています。

櫓門は、市民の浄財を集めて、修復して残すということになり、修復、県の重要文化財になりました。

文化会館の次に、図書館ができました。ちょっと離れていて、三の丸からは遠い所になりましたけど。そして歴史資料館が、「文教都市佐伯」の提言から、50年かかってやっと今建設されつつあります。

・毛利家につてを求めて

毛利さんの住まいだった御居間が一つだけ、それと庭園が残っていたんですが、それを保存するという考えを入れて、この場所に「資料館を建設するという構想」を佐伯史談に載せました。

その後、その提案を、私が塾長を引き受けていました四教堂塾でまとめて冊子にして、毛利記念館なり歴史資料館なりを作ったらどうかという提案書を市役所にも出しました。

佐伯史談に載せた私の構想に目をとめたのが商工会議所会頭を長く務めておられた高山善吉さん。この方は、佐伯の歴史に非常に詳しい人でした。

というのは、自分所のお祖母さんが、毛利家の女中として上がっていたんです。女中だけど、そこにいた毛利家の二人の娘さんと一緒に教育されて、学

校にもやってもらっていた。

そういうことから、高山善吉さんが、学校を卒業して、就職をどこにしたらいかという時に、つてを求めて、毛利さん宅を訪ねて行った。

そしたら、どこの田舎者が来たんかということで、門前払いされそうになった。いやあ私はこうこうこういう者ですと言った所、向こうの娘さんが覚えておりまして、あーあの人のお孫さんかということで上に上げてくれた。

「就職のことだったら、矢野龍溪さんが生きていたらお世話をしてくれる所だったでしょうに」と。

その後、善吉さん、佐伯に帰ってきたと言うんです。

・老体にむち打った高山善吉さん

その高山善吉さんから、亡くなる何ヶ月か前のことでしたが、電話がありました。私はちょっと身体が悪くてあんた方によろ行かんから、来てくれんかって言われたんです。出かけて行ったら、あなたが佐伯史談に載せる資料館の構想、是非ともこれを実現させたい。私は今から市長の所に行って、覚悟はできてるかそれを聞いてくると言うんです。

丁度その頃、ふるさと納税というのが始まったばかりの時でした。それで、東京に行って佐伯の出身者たちに声をかけて、ふるさと納税を佐伯にしてくれるように言ってくる。また同窓会の人たちにも話をしてくれると。

善吉さん、市長の同意をもらって東京に行ったんです。それがもう、老齡、100歳に近い、90何歳、だから飛行機に乗るのもなかなか乗れなかった。それをむりやり乗せてもらって、行って帰ってきたんです。帰ってきて、私の所に電話があって、いい報告ができるから来てくれるかという話だったんですが、そのまま、入院して亡くなってしまわれた。老体にむち打って、最期まで行動の人でした。

でもこの話が、歴史資料館建設につながって今があるわけなんです。

ロープウェイの話も聞きました。自分はもう高齡になって城山に上りたいけど上れない。観光客も年取った人が来たらなかなかあれを歩いて上ることは難しいでしょう。だから、私はあそこにロープウェイを架けるんじゃないと言うんです。

リフトとか、ああいうのだったらそんなに山をいためずに、支柱を何本か立てれば上れるはずだ。車が上れるような道路をつくらなくてもいい。それを私はやりたいんじゃないと言っておりました。

・「四教堂塾」に関わって

10年前、市民まちづくりグループ「四教堂塾」が発足しました。温故知新のまちづくりを提唱し、そして講演会とか研修会とか、史跡に標識、案内板とかをつくっていきました。

しかし、四教堂塾は、つくった案内板にその名前を入れませんでした。これは四教堂塾の功績ですという表明はしていないんですね。

三余館入り口近くの四教堂の跡の案内板。三の丸にある佐伯文庫の跡の碑文とか、こういう文人たちの墓に立てた標柱など、あります。

私はそれまで、こういう人物誌は、全く関心が無かったというかまだそこまで及ばなかったんです。

だって私が専門にしてきたのは中世の梅牟礼城時代でした。平安末期から戦国時代の終わりまでを一生懸命やってきたんです。そして、江戸時代とか古代とか、関連して調べながらでした。

四教堂塾に入って、この人物誌をやってくれと頼まれたんです。入って、初めて藩政時代の教育と人物誌に取り組むことになりました。何分この世界は漢文・漢詩の世界ですから、とても太刀打ちできない。そう思いながら、辞書を引く毎日でした。

・漢文・漢詩の読解に取り組む

漢文・漢詩は、一言一句、辞書を引かないと訳せないんです。読みが正しいかどうか疑問です。読んで意味が通じないときはどっか間違ってますね。

一回、詩吟の会に見学に行ったというのが、詩吟の調子、詩吟で詠った時にすら一っと詠えるかどうかという所が一つの目安になるんですね。漢詩は詩吟で詠えるようにつくるといことがあるんですね。

辞書と首っ引きでしたが、しかし、段々読む内に意味が分かってきたから面白くなってきたんです。昔の人ってこんなことを勉強していたのか。漢詩の中には、中国の古典が入ってきて、しかも日本の時代背景とその時の作者の思いが込められている。これを読まないとはやはり人物誌は書けないなと思いました。

・地道な作業には、大きな励ましとなりました

今回の応募作品は中島子玉の『日本史』、松下筑陰の『窈窕篇(ようちようへん)』でした。この難しい漢詩の世界を自分自身がどう理解していくか。まず取り組んで自分が理解しないことには人に伝えることができない。それをどうやって伝えられるだろうかというこれはまだ模索段階のものであると言った方がよいと思います。自分が理解するためにつくったものです。

みんなに理解してもらえるように一生懸命、絵を付けていますが、中身は漢詩です。見ただけで頭が痛くなるとみんな読もうとしないだろうと思ってですね、この詩を現代詩風に置き換えて伝えるともしかしたら一般の人にも読んでもらえるかなあと思いました。

こういう地道な作業をしてただけに、受賞は大変有り難い励みになったと感謝しています。

以上の内容を、授賞式の発表では、7分の制約の時間内に読み上げたような次第です。